

多様なプレイヤーとの協働による学びの充実

～社会に開かれた教育課程の実装を目指して～

はじめに

鎌倉市は、多くの神社仏閣をはじめとする歴史的な遺産や、海・山などの自然環境に恵まれたまちです。そのような鎌倉市の豊かな文化・自然を求め、国内外から多くの観光客が鎌倉市を訪れています。一時の観光だけではなく、鎌倉という場所に可能性や愛着を感じ、移住したり事業を始めたりする方、鎌倉市のために何か貢献したいと力を貸してくださる方も、ありがたいことに少なくありません。

鎌倉市教育委員会としては、このような鎌倉という場所の魅力を最大限活用して、「鎌倉市の教育に協力したい」という熱い思いをもって下さる多様なプレイヤーの方々とコラボレーションしながら、子どもたちの教育のより一層の充実に向けて取り組んでいます。

1. 多様なプレイヤーの参画(ヒト)

鎌倉市教育委員会では、鎌倉市の教育のため、教育委員会における教育政策の検討・実施のほか、学校内外での教育実践等、様々な場面で、多様な外部人材や組織に協力いただき、子どもたちの学びの充実のための取組を進めています。

(1) 教育政策の検討・実施

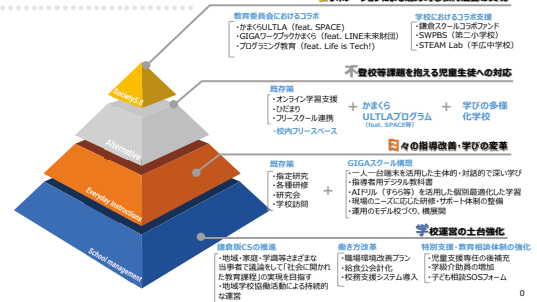
鎌倉市教育委員会では、現在、市の教育政策に係る計画(鎌倉市教育大綱、かまくら教育プラン、鎌倉市生涯学習プラン)の見直しを進めていますが、民間企業(PwCコンサルティング合同会社)にサポートいただきながら、鎌倉市の教育の現状整理や今後目指すべき姿

を含む、次期教育大綱・計画の検討に取り組んでいます。

検討の過程では、鎌倉市の教育に関わる方の多様な意見を反映させるために、これまでに教育委員会や校長会、教育委員会事務局でのワークショップを実施しており、さらに今後、子どもたちの意見を直接聞く場の設定等も計画しています。

これまでの議論からは、「鎌倉でしかできない学び、突き抜けた鎌倉らしさの実現」や「子どもの思いに寄り添った教育」、「枠にとらわれないワクワクした教育」といったキーワードが紡ぎ出されており、引き続き多くの方の意見を聞きながら、「鎌倉ならではの」教育政策の方向性を取りまとめていきたいと考えています。

Policy pyramid 鎌倉市の教育施策体系



鎌倉市の教育施策体系

12/13. 鎌倉の教育大綱に関するディスカッション @教育委員会



(2) 民間人材の積極的登用

鎌倉市教育委員会では、新設のポジションである「教育行政職」、「スクールロイヤー」を含む5職種を、人材紹介会社（エン・ジャパン株式会社）のソーシャルインパクト採用プロジェクトのサイトも活用して公募しました（令和5年12月に公募開始、令和6年4月現在募集終了）。教育行政職には89人、スクールロイヤーには4人の応募をいただき、複数の合格者を出すことができました。

また、令和5年度は教育アドバイザーを3名委嘱し、教育に係る施策等の助言をいただいています。



エン・ジャパンでの公募サイト



プロのソーラン節ダンサーによる表現の指導



身近なワクワクもやもやを題材にした
課題解決型学習の取組

(3) 学校教育における学びの充実

前述したような教育委員会事務局における取組のほか、学校教育の現場でも、ワクワクする魅力的な学びを実現するため、多くの民間人材の方に協力いただいています。

具体的には、ふるさと納税の仕組みを活用した「鎌倉スクールコラボファンド」（詳細は後述）を通じ、市立小中学校において、企業・NPO・大学等とのコラボレーションを通じた、魅力的な教育実践を進めています。

協力いただいている人や組織は、アーティスト、映画監督、プロダンサー、プロスポーツ選手、地元のメーカー、語学教育関係企業等、多岐にわたっており、外部の方に協力いただく学びの機会は、課題解決型学習や探究学習を実施していく中で、子どもたちにとっても教員にとっても、刺激的でワクワクする経験となっています。

(4) 学校外での学びの充実

学校教育以外でも、鎌倉市教育委員会では民間人材・組織の協力を得て、鎌倉の文化や自然を存分に生かした学びの充実に取り組んでいます。

その代表的な取組が、「かまくら ULTLA*（ウルトラ）プログラム」です。これは、不登校、あるいは学校を休みがちになっている子どもたちを対象に、鎌倉の森や海、寺など地域の資源・環境の中で、参加者一人ひとりが個性・特性に応じて自分らしく学ぶ方法を見つけることを目的とした探究型プログラムで、鎌倉市教育委員会と民間企業（株式会社 SPACE）の協働で企画・運営を行っています。プログラムの中でも、住職、研究者、作家、漁師等、多様で個性的な多くの外部人材の方にナビゲーターとして協力いただいております。参加した子どもたちからは、「たくさんの“大人げない面白い大人たち”との出会いと対話が貴重な楽しい経験になった」という声をもらっています。

* ULTLA は Uniqueness Liberation Through Learning optimization and Assessment（学びの

最適化と評価による個性の解放) の略。

(下) かまくら ULTLA プログラムの様子 (上が海の生き物になりきる活動、下がライトの光り方のプログラミングを行う活動)



2. 企業協力による環境充実(モノ・コト)

上述した人材面のほか、鎌倉市教育委員会では、教育環境の充実においても様々な企業等に協力いただき、教育環境の一層の充実に繋げています。

例えば、鎌倉市の全市立小中学校の給食で使用する牛乳用のストローは、株式会社カネカの協力のもと、同社が開発した生分解性バイオポリマーを原材料とする製品に切り替えており、子どもたちの環境教育にも寄与する生きた教材となっています。

また、STEAM Lab 実証研究校として、インテル株式会社及びパートナー企業から、3D プリンタを市内の小中学校1校に提供いただいているほか、リコージャパン株式会社の協力を得て、古くなった朝顔の植木鉢を3D プリンタの材料であるフィラメントとしてアップサイクルし、生徒たちが3D プリンタで地域の高齢者向けのプレゼントを作るといった特徴的な教育活動が行われています。

さらに、家具メーカーのイケア・ジャパン株式会社と

令和5年に連携協定を締結し、令和7年4月に開校予定で全国初の分校型となる「学びの多様化学校」や校内のフリースペース等における魅力的な空間づくりの構築について、協力をいただいています。

子どもの学びの充実だけではなく、教員が働きやすい職場づくりについても、企業の協力をいただいて、改善・充実を進めています。UCC 上島珈琲株式会社からは、希望する市立小中学校にコーヒーマシンを提供いただいております。放課後に職員室で教員がコーヒーを飲みながら教育の在り方を語り合う、という素敵な光景が、各学校で見られるようになっています。

3. 教育充実のための資金の多様化(カネ)

前述したような様々なプレーヤーとのコラボレーションは、協働先の人・組織のご厚意で必要な経費を負担いただくケースも多いですが、社会に開かれたワクワクする学びを学校現場で継続的・安定的に実践していくためには、その活動を支える資金の確保が必要です。鎌倉市教育委員会では、そのために「鎌倉スクールコラボファンド」という仕組みを構築し、ふるさと納税の仕組みを活用したガバメントクラウドファンディングで広く支援金を募り、子どもたちの学びの充実のために活用させていただいています。令和2～5年度には約2,600万円を調達し、様々な人・組織と協働した学びのプロジェクトを実現しています。このような独自財源を持つことで、これまでの一般財源だけでは難しかった多様な教育活動を、より柔軟な形で直ちに実践することが可能になっています。

鎌倉スクールコラボファンドを活用した多様な教育活動を通じ、子どもたちは明らかに変わり始めています。同ファンドを活用した教育実践を行った学校で、取組前後で子どもたちを対象にアンケートを行ったところ、「自分が動くことで地域や社会が変わっていくと思う」、「SDGsは遠い世界の話ではなく自分とつながりのあるものだと感じている」という設問で肯定的な回答が、それぞれ38%から81%、26%から93%に大きく増加しています。

鎌倉市教育委員会としては、現在の鎌倉スクールコラボファンドの取組をさらに進化させ、教育に活用できる



財源の充実・多様化を図るため、教育アドバイザーや民間企業のアドバイスも得ながら引き続き検討を行っています。鎌倉スクールコラボファンドへの寄附を検討される方に「是非支援したい」と思っただけのような活用の方法や情報発信の在り方について、より一層磨き上げるとともに、令和6年4月から基金を設置し、期間を限定して受け付けていた寄附を通年で受けることとしました。さらに、新たな金融商品の運用益等を活用し財源としての持続可能性を高めることを検討しています。

学校教育の土台となる環境整備や基本的な教育実践は引き続き公財政でしっかりと措置しながら、鎌倉スクールコラボファンドをはじめとする民間資金の活用により、鎌倉らしい魅力的な教育活動を柔軟に組み合わせることで、鎌倉市の教育全体をより進化・深化させることができると考えています。

おわりに

「社会に開かれた教育課程」と言われて久しいですが、未だ、多くの教育委員会や学校がその実装に課題を抱えていると感じています。その背景には、多くの学校現場が深刻な人的・物的リソース不足にある中でも引き続き「自前主義」に囚われていたり、「平等主義」を重んじるあまり外部の人・組織と協働した多様な教育活動を避けてしまっていたりする、教育関係者のメンタリティに起因する側面と、公教育が税金を財源とする公財政に依存しており柔軟な教育実践が展開しにくいという側面があると考えています。

変化の激しい社会へと船出をしていく子どもたちに

対する教育を社会から隔離した状態で行うことは、教育としてあってはならないことだと考えます。教育現場を社会に開き、社会の中の多様で面白いプレーヤーとコラボレーションしながら、ワクワクする魅力的な教育実践を積み重ねていく— 鎌倉市では、そのようなチャレンジを今後も続けていきます。そして、同様の期待や課題を持つ全国の教育委員会の皆様とも繋がりながら、鎌倉市の実践を他の自治体でも参考にさせていただけるように、我々のチャレンジに伴う成果や課題、新たな発見を、どんどん発信していきたいと考えています。

今回ご紹介した、鎌倉市における多様な民間人材・組織とのコラボレーションは、「鎌倉市だからできること」だと思われるかもしれませんが、もちろん、知名度など鎌倉市が持っている強みは今後も最大限生かしていきたいと思っています。同時に、我々がコラボレーションをしている人・組織は、鎌倉市だから特別に協力してくださっているというよりも、さらに広く「日本の未来を担う子どもたちの力になりたい」という思いで協力してくださっている方ばかりであり、外部の人・組織と協働した学びの充実は、どのような地域でも実践可能だと考えています。鎌倉市教育委員会がファーストペンギンとして多様なプレーヤーと協働し、その過程で得た知見や成果を他地域の教育委員会や学校でも活用いただき、全国の子どもたちの学びの充実に貢献できるならば、これほど嬉しいことはありません。

鎌倉市の取組は、鎌倉市教育委員会のウェブサイトや、「鎌倉市教育委員会 note」でも発信していますので、是非ご覧ください!

(鎌倉市教育委員会ホームページ)

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyouiku/kyouiku/iinkai/>

(鎌倉市教育委員会 note)

https://note.com/kamakuracity_edu

